

2021 東京都議会議員選挙の取り組みを終えて

～組合員・家族の皆さまへ～

2021年7月4日、東京都議会議員選挙が投開票されました。私たちは日本輸送サービス労働組合連合会（以下、JTSU）議員懇談会から3名を推薦候補として擁立し、必勝に向けて取り組んできました。結果は、西沢圭太氏、森愛氏の当選、残念ながら三雲崇正氏の惜敗でした。投票日まで数多くの取り組みと、この都議選を注目して頂いたすべて組合員と家族の皆さまに心から感謝申し上げます。

はじめに、今回の都議選において私たち JTSU がこの3名を推薦し、支援してきたのか改めて明確にします。この3名は JTSU 議員懇談会に所属していることから、私たちの運動と考え方に賛同を頂き、政策協定を締結しています。その上で、日々の職場の問題や課題の解決に向けてそれぞれの立場でご協力頂いてきました。また、この選挙戦において3名の訴えに共通していたことは、「命を最優先する政治」「物から人へシフトする社会」「『自助』から『公助』へ」「忖度する政治から主張する政治へ」等は JTSU の掲げる課題と一致しています。

次に、今回の選挙の特徴は、①秋までに行われる衆議院選挙の前哨戦と位置付け②自民・公明両党が都議会の過半数を獲得できる③新型コロナウイルス感染拡大に向けた東京都の対応④オリンピック・パラリンピック開催の是非等々、多くの争点があるにも関わらず、各候補者の主張や考え方が明確にされず、大変見えづらくなっていたことから、どの選挙区においても対立点が明確にならなかったことが主な特徴と言えます。

今回の都議選は、投票率は42.39%と前回より8.87%（前回51.28%）下回ったことから、さらに政治離れが進んだと言えます。また、菅政権下で行われた4月の衆参3選挙、静岡、千葉県知事選挙で自民党の敗北が続いたことから、都議会第1党の都民ファーストの議席数と自公両党の議席に注目を集めました。結果として、自民党が掲げた自公で過半数を獲得できませんでした。一方、野党共闘で臨んだ21選挙区で12選挙区が当選し、一定の成果を得ています。このようなことから今後「野党共闘」の機運が高まる選挙であったと言えます。また、女性の当選者が過去最高の41名（女性割合32%）と男女平等指標のジェンダー・ギャップ指数の低迷を指摘されている中において、少なからず評価できる結果と言えます。

最後に、都議選において JTSU 推薦候補者全員の当選は果たせませんでした。次期衆議院選挙は、新型コロナウイルス感染対策や、福島第1原発の処理水の海洋放出問題、政治と金の問題等、一人ひとりの「生存権」をかけた菅政権への審判が下される選挙と位置づけられます。

私たちは都議選の取り組みをふまえ、議員懇談会と連携し、労働組合として組合員と家族の負託に応えるために、さらに奮闘していくことをお約束し、お礼に代えさせていただきます。

2021年 7月 7日
日本輸送サービス労働組合連合会